

千葉経大新聞

第52号
発行
千葉経済大学
千葉市稲毛区轟町
3-59-5 (〒263-0021)
TEL.043(253)9111(代)
FAX.043(254)6600
http://www.cku.ac.jp

「社会の原義と共感・共生」

学長 小滝敏之



世の中、「高度情報化社会」とか「グローバル社会」などといわれて久しい。これらの意味するところは多義的とはいえ、概して、高度の情報や知識を駆使できるものでなければ生き残れないとか、地球規模レベルでの競争に打ち勝ち世界を制覇していくことが必要であるとかいうような含

意がある。
しかし人間社会は決して競争一辺倒の世界でもなければ適者生存の世界でもなく、またそうであってはならない。勝者や強者のみ生き残る「競争社会」などではなく、敗者や弱者も共存し共生し支え合っていく「共存社会」でなければならぬ。

合っていくためには相手の気持ちを理解し合う心がなければならない。論語でいう「恕(じょ)」や「仁(じん)」の精神、すなわち「思いやり」「共感」の心であり、この「共感(シンパシー)」の心情こそ「共生(シンビオシス)」の基盤をなすものといえる。

「社会」を意味する英語の「ソサイエティ(Society)」やフランス語の「ソシエテ(Societe)」という用語は、「ソキエタス(Societas)」というラテン語に由来する言葉であるが、「ソキエタス」は「結合する」「結束する」という意味の「ソキオ(Socio)」や「仲間」を意味する「ソキウス(Socius)」という言葉から派生したもので、人間の仲間同志の結束した姿を「ソキエタス」と呼んでいた。した

経済学と価値判断

経済学部長 鈴木信雄



経済学の歴史を振り返ってみると、経済活動と秩序形成の問題は密接不可分の関係にあるという認識が経済学の成立にとって決定的に重要であったことが理解できる。経済学を生誕させた代表的人物であるA・スミスが、経済活動がもたらす秩序形成機能に

ある」として、A・スミスと並んで経済学を生誕させた人物であるF・ケネーやJ・ステュアートも同様な認識に立っている。経済学の歴史の中で、あらゆる社会現象を演出する根本的原理は経済過程にあるとする「経済決定論」と呼ばれる考え方が有力であるのはいずれの考えによるのか。だが、こうした認識を共有していること、エコノミーの世界が産出する秩序の在り方や安定性に関して同一の認識に達することは自ら別問題である。その意味で、エコノミーの世界が編成する富の産出と分配のメカニズムをど

のようには評価するかという「当為」の問題を巡る見解に对立が残らざるを得ない。経済学の歴史を、ただ単に理論の修正・発展の歴史として描くことができないのはそのためである。要するに、それぞれの経済学の背後には常に特定の価値判断が介在しているのである。

だが、現代の「経済学」に直接関わりを持つ十九世紀後半以来の経済学は、数学をツールとした自然科学を手本にして、価値判断を経済学から追放しようとした。こうして、イデオロギー的立場が如何なるものであろうとも万人が認める経済「科学」の構築、これが彼らの共通したスローガンとなり、経済科学の中立性という神話の創造に精を出すことになる。だが、経済学をできるだけ自然科学に近づけ、経済現象を数学という「驚くほど緊密かつ精密

な言語で明白に表現できるよ」う」になったからといって、それはイデオロギー的主張を排除したことを意味するのではない。J・M・ケインズはこの点に関して「経済学は基本的に道徳科学であって、自然科学ではない」と述べている。つまり、あるべき秩序、あるべき規範といった日常生活を律している価値判断から経済学は自由であり得ないと言っているのである。

この問題は、M・ヴェーバーが「価値自由」の問題として議論したところのものである。M・ヴェーバーの言う「価値自由」とは、社会科学における価値判断の排除を意味するものでも、またそのような方法的態度によって認識の客観性が獲得されることを主張するものでもなく、客観性は主観的前提のうえに成り立つものであって、この自覚の上に恣意的な価値判断を

抑制できる自由な精神を指している。それ故、安易に社会科学における価値判断の排除を主張することは、かえって特定の価値判断による拘束を招く可能性が大きいとも言える。経済学が、価値判断の排除という原則を掲げ、自らを中立の立場で理論構築を行っていることを確信している時である、結果としてみれば、十九世紀以来の産業社会のイデオロギーの数学的緻密化に汲々としていたことは充分ありうることなのである。

この問題は、M・ヴェーバーが「価値自由」の問題として議論したところのものである。M・ヴェーバーの言う「価値自由」とは、社会科学における価値判断の排除を意味するものでも、またそのような方法的態度によって認識の客観性が獲得されることを主張するものでもなく、客観性は主観的前提のうえに成り立つものであって、この自覚の上に恣意的な価値判断を

この度、NPO法人日本ニュース時事能力検定協会より、本学の検定試験に向けた日頃の取組みに対して「団体賞」が授与されました。

本学では二〇一一年の後期にニュース時事能力検定(N検)を導入して以降、年四回のペースで、団体受検(学内受検)を実施してきました。受験者数も回を追うごとに増加傾向にあり、一年生から四年生までの四〇〇五〇名が毎回受検しています。

また、最近では一級・五級の六つの受験級のうち上位級(二級・準二級)の合格者が目立ってきています。N検とは、ニュースの理解に不可欠な社会の仕組みと流れの知識を測る検定試験です。昨今の就職活動における

採用試験では筆記試験はもちろんのこと、書類選考や面接試験の中で時事力が問われる傾向にあり、広い視野で世の中を捉え、社会人と同じ土俵で対話する力が問われるようになってきています。また、採用面接試験の典型質問である「ガクチカ」(「学生時代に最も力を入れたこと」)において、「語れる経験」として、N検合格を活用しながら内定をもらう学生が増え始めています。自分ができる仕事を探すためにも「時事力」は大きな助けとなります。入学したばかりの新生生の皆さんにも是非積極的にN検にチャレンジしてほしいと思います。

大規模化し匿名化した現代社会では、人間の心のつながりなど失われがちであるが、語源の「社会」や「ソキエタス」に生きていた「共感」や「共生」の精神を復活再生して、お互い支え合っていくことのできる社会にしていく必要がある。

次の日からはガイダンスや新入生歓迎会など、大学生と

してのキャンパスライフがスタートしました。新入生の皆さん、それぞれの目標に向かって頑張ってください!!

学内の桜(卒業生の記念樹)も満開となり、新入生を歓迎していただきました。

採用試験では筆記試験はもちろんのこと、書類選考や面接試験の中で時事力が問われる傾向にあり、広い視野で世の中を捉え、社会人と同じ土俵で対話する力が問われるようになってきています。また、採用面接試験の典型質問である「ガクチカ」(「学生時代に最も力を入れたこと」)において、「語れる経験」として、N検合格を活用しながら内定をもらう学生が増え始めています。自分ができる仕事を探すためにも「時事力」は大きな助けとなります。入学したばかりの新生生の皆さんにも是非積極的にN検にチャレンジしてほしいと思います。

- ### 千葉経済大学の目指す目標とスローガン
- 1 私たち千葉経済大学は
 - ① あたたくく面倒見の良い大学
 - ② 人間力・社会人基礎力をつけて社会に送り出す大学
 - ③ 千葉の経済に強く、就職に強い大学
 を目指しています。
 - 2 私たち千葉経済大学の教職員は
 - 学生一人ひとりに夢と希望、目標を抱かせ、意欲を高める
 - 教育を実践します。
 - 3 私たち千葉経済大学の教職員は
 - 学生が勉学のみならず、スポーツ・文化活動、ボランティア活動等にも打ち込み、充実したキャンパスライフを送ることができるよう
 - 全力で支援します。

平成26年度 入学式挙行

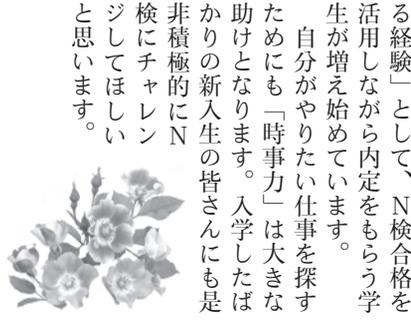
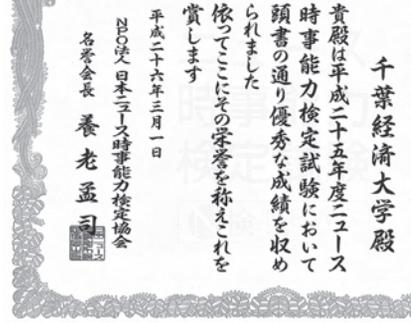
平成二十六年四月一日(火)、学内の桜もすでに満開の中、平成二十六年年度の入学式を挙行いたしました。

清々しい春の気候のもと、新入生たちの表情はその気候と同様清々しく、また夢と希望に満ち溢れていました。

式典では、本学の理事長、学長などが新入生に向けて華やかな言葉を贈り、代表の学生からも期待に応える宣誓がありました。

式典の後は、毎年恒例の在学生によるクラブ紹介もありました。

次の日からはガイダンスや新入生歓迎会など、大学生と



大学WEBサイト(ホームページ)がリニューアルしました!

平成二十六年五月十五日午前十時から、大学WEBサイト(ホームページ)がリニューアルしました。

今回の設計の目的は、本学を高校生、在校生、卒業生、保護者の方、学内外問わず広く一般の方に、必要とされている情報を広く発信し、入試広報、研究広報、卒業生に対する帰属意識の向上に努めるものとして

基本デザインは、スクールカラーのオーベルジーヌ(茄子紺色)をメインカラーとして主要な箇所を校名

は常に掲載してブランドイメージの確立を図れるように施しています。またアクセスした方が「見たい情報がすぐに見られる」ように、トップページのナビゲーションはシンプルかつ分かりやすい表現と、ドロップダウンメニューを採用してすぐに目的情報にたどり着ける設計としています。

サイトの構成は、大学概要(主に大学紹介)、学部・大学院(主に学びの紹介)、キャンパスライフ(主に学生生活やサポート体制の紹介)、就職・キャリア形成(主に就職支援の紹介)、社会連携・生涯学習(主に地域経済博物館やオープンアカデミーの紹介)、入試情報(主に大学入試制度、オープンキャンパス



また訪問者別のナビゲーションとしては、受験生、在校生、保護者、同窓生、企業の方、地域の方から成り立ち、以前は独立していた「千葉経済大学総合図書館」サイトも組み込まれています。

今回新たに取組んだ試みとしては、動画が常に視聴で

きる仕組みにし、また教員の研究成果を掲載するページや、在学生のクラブ・同好会の活動紹介を各団体が掲載するページを充実するなどしています。

まずはご覧頂き、ご意見ご感想などございましたら、入試広報センターまでお寄せください。

大学での新たな取り組み

「皆さんの能力アップに向けて」



千葉経済大学では、今年度より基礎演習のプログラムを根本的に刷新しました。

メインイベントは学期末に行われるクラス対抗の合同報告会です。

今年度から基礎演習Ⅰ・Ⅱでは、すべてのクラスを複数のグループに分け、グループごとに協力して「テーマを決めて調べる」、「わかったことをまとめる」という作業を

行ってもらう、最後に「他人に説明する作業を行います。これら一連の共同作業を通じて「主体性」、「実行力」、「計画力」、「発信力」、「規律性」を養ってもらいたいと考えています。

これらは「社会人基礎力」を構成する要素です。千葉経済大学は「社会人基礎力」を持った人材の育成を目指しており、基礎演習を通じて、具体的にこれらの能力を養成しようというわけでは

ほとんどの授業では、教員が説明することを学ぶというスタイルをとることが多いと思います。一方、基礎演習で

ここで挙げた要素は、社会人となって他人と共同で仕事を進めていく上で、絶対になくはならない普遍的な能力です。学問的な能力を磨くだけ

専任講師 都築 栄司

高校までと違い、大学には自由時間が山ほどあります。熱中できることを見つけ、それに打ち込んでください。

そんなこと言われても



新任教員所感

……と思ったあなたは、まず好きなこと、得意なことを見つけてから始めてみては? これまであまり興味を持てなかったことを試しに一度やってみると、意外な発見があるかもしれません。

そんなことのできる期間は長い人生の中でもこの四年間くらいです。その経験は卒業後きっと輝かしいものとなるはずですよ!

「社会人基礎力」に代表されるような普遍的な能力も磨いてください。

授業紹介

内山ゼミ紹介

北総の里山を歩く

教授 内山 隆

生態学演習として、三月二十一日に千葉からも程近い里山の現状を見学してきました。参加した学生は里山に関心を持つ新四年生一名と三年生二名の三名でありました。

が、開発されつつある住宅地と里山地域の環境、さらに都市部との比較を実感できる機会になったと思います。

対象とした物井地区には鹿島川沿いの水田地帯を見下ろす台地上に、天照皇大神社、円福寺、宝蔵院が位置し



(写真1)



(写真2)

さらに、SATO YAMAとして世界中でその価値が認められる中、豊かな農業の歴史をもつ日本はその保全に先導的な役割を担うことが必要です。そこで世界農業遺産として登録された大分県宇佐地域のクヌギ林のシイタケ栽培を対象とした情報整理なども行ってみようと考えています。

ており地域の中心になっていきます。西側の緩傾斜面と南側の低地が「もねの里」として開発されており、周縁には物井駅からの道路が新設中でした。(写真1)

現地の案内には亀崎在住の林田さんをお願いし、田園環境の変遷について説明を受けることができました。林田さんによると、「台地から浸みだす水は、水量が安定しており谷津田の稲作に適してい

た」そうです。また、「台地周縁の谷津田は鹿島川の氾濫による水害の影響を受けることがなく、かつては生活基盤として重要であった」ということです。

この他、集落が点在する台地の里山は、「建材などの多岐にわたる用途に使われ生活資料の供給地」として管理されてきましたが、近年は「化石燃料への依存度が高まり、それまでの松(燃料)や、ケヤ

キ(木造船資材)を主とする里山は、管理されることがなくなり、常緑樹や竹が増加し現在の里山を形成するようになった」と言うことでした。

最後に訪問した亀崎熊野神社で林田さんと記念撮影をおこない早春の観察会を終了しました。(写真2)

この見学会をもとに、提出されたレポートからエピソードの抽出と検討を四年生が担当し、卒論の出発点にする計画をたてています。

平成25年度 卒業証書 学位記授与式

平成二十五年年度千葉経済大学卒業証書・学位記授与式及び卒業謝恩会が、市内ホテルにて挙行されました。

学位記授与式では、大学院(修士)五名、経済学科一五名、経営学科



一二二名、経済学部合計二二七名の卒業生に学位記が授与されました。

式後には、恩師からの学位記授与を受け、感謝の言葉を述べた者、お互いをたたえあう者など、様々な表情が見受けられました。

